

「健康的に自分らしく笑える喜び。  
その自然さが、歯における  
”美しさ“なんです。」

まずは噛める歯、  
健康な歯であることが  
第一に大切です。

人間、なにをもものを食べない日ってないですよ  
ね。どんなに白く歯並びのよい歯でも、なんら  
かのバランスの悪さで、うまく咀嚼できなかった  
ら：それは体にとって必要な栄養を欠くこと  
になります。また、女性においては特に「美の維  
持」を妨げることに繋がります。なにより、美  
味しい食事を食べられないということ自体、そ  
れは「不健康」そのものです。体の一部であり、  
また「食」という最も人間の生に関わる行為に  
影響を与える「歯」の存在。見た目の美しさに  
こだわる前に、「噛める」「じょうぶである」「違  
和感がない」など、コンディショナルに万全な歯  
であることが、歯と共に生きていくための前提  
でなければならぬのです。そうした歯の健康  
美そのものが、「審美」であると私は考えます。

患者さんの口の中で  
生き続ける確かな治療。

近年、患者さん達の「審美性」に対する美意  
識の高まりには、目を見張るものがあります。  
美しい歯にこだわりを持つ患者さんが増えてい  
ることは、それを極めている私達歯科医にとって  
なによりの喜びです。しかし、どんなに綺麗にし



たくても「何処に行けばいいかわからない」「ど  
ういう治療がいいかわからない」という不安は付  
きもの。それをクリアするための情報源になる  
ところから、審美治療のファーストカウンセリン  
グです。患者さんの求める「美しさ」に忠実に応  
えるばかりが、「審美」ではありません。そこに  
生じるリスクについて正直に説明できる、また治  
療のみの患者さんへその方に合った審美治療を  
紹介できることが、私の考える「審美」であり歯  
科医の責任でもあると思うのです。

だからこそ私は、自分の施すデンタルエス  
ティックが、その方の口の中でどれだけ長く生  
きるか、そしてどれだけ長くその方の笑顔を  
演出できるかというところに熱意を持って治療  
しています。それが私の審美歯科医としてのプ  
ライドなんです。また、そうした自負にもとづ  
く高い審美技術が、都会や海外に行かなくて  
もここ八代で受けられる安心感を患者さんに  
も感じてほしいんです。

患者さんの美に対する  
意識の変化。  
歯科医としての新たな決心。

私もやはり患者さんの美意識改革には大き  
な期待をかけている者の一人です。なぜなら、  
「審美」の世界において、「美」とは歯の健康そ  
のものだからです。そうした美意識の向上が、  
患者さんの健やかさにも通じると信じていま  
すし、そのためにも私自身、自らの技術向上や  
若手ドクターの育成にも積極的に携っていか  
なければと思っています。



▲Aは歯石も詰まり、黄ばんでいる。Bは「審美」の治療をした後の  
写真。ナチュラルな白い歯になっているのが一目で分かる。

### 井上 裕邦先生

#### Profile

福岡歯科大学卒業。1993年より熊本市【川崎歯科】勤  
務。1999年、八代市にて「井上歯科クリニック」開業。  
現在、日本顎咬合学会認定医、日本矯正歯科協会会員、  
KOCインストラクター。並びに「オンフェールミキ」の  
講師、「八代実業専門学校」の非常勤講師も勤める。

取材協力/井上歯科クリニック



## 井上歯科クリニック

☎0965-39-7335 Fax 0965-39-7355

http://www.inouedc.com

住/八代市松江町440-2

診/9:00~12:00・14:00~19:00(土曜は~13:00まで)

休/第2,4土・日曜、祭日

